

第2回市民総参加のまちづくりサロン会議録

平成19年5月25日

午後7時～8時30分 カルチャーセンター 第1、2多目的ホール

市民参加者 24人

市側参加者 9人

- 開会
- 岡谷市民憲章唱和
- 矢島参事あいさつ
- 意見交換：(市) テーマ分布図に基づき、3グループ+1グループに分かれることを提案。

テーマ「健康・福祉・子育てなどについて」→希望者8人

「環境・ごみ・景観などについて」→ 5人

「街の賑わい、活性化などについて」→ 11人

「(自由な話し合い)」(フリーテーブル)→希望者無し

サロン進行のルール of 提案 (別紙のとおり)

- 参加者：話し合う時間を延長できないか。開始を早め、2時間程度話をしないと時間が足りない。
- 参加者：開始は7時とし、終了を遅らせるのはどうか。
- 市：個人の都合もあるので、8時半で一度終了し、残れる人は9時頃まで話し合うこととし、様子をみたい。

○健康・福祉・子育てなど 参加者8人

- ・新病院建設場所(文化センター、岡谷病院現在地、駅南)をどこにするか、診療科目は?ということが問題になると思う。
- ・塩嶺、岡谷病院それぞれの考え方もある。
- ・今までの経過を市民は知らない・・・2つの病院を1市では財政上経営できない。
- ・病院統合しないとやっていけない。病院がゼロになることはもっと困る。
- ・活断層は3m掘るだけでわかるのか。
- ・市民の関心を持たせるために、アンケート調査をしたらどうか。
- ・産科・婦人科をなくしてはいけない。
- ・総合病院とかかりつけ医との連携をとってほしい⇒病診連携

- (例) 子どもが熱を出した時に、かかりつけ医にかかり、重い場合は病院へという連携。
- ・夜間7時～9時に、諏訪地区小児夜間急病センターが6月から開始される。
 - ・新病院は市民にやさしい病院、行ってみたい病院になることを望む。
 - ・市長が「自分の医者を持つよう意識しましょう」と言っていた。どのくらいの人がそういうことを知っているか。市民に関心をどうもたせるか。
 - ・岡谷病院、塩嶺病院のレベルは？⇒個々によって感じる度合いが違う。
 - ・岡谷病院はサービスが悪いと数人から聞いたことがある。
 - ・岡谷病院のほうが塩嶺病院より仕事が加重？
 - ・昔より看護師の数が少ない気がする。(夜勤の様子から)
 - ・統合によって、サービスがよくなってほしい。
 - ・岡谷から日赤に受診している人はどのくらいいるか。(約2割弱)
 - ・年寄りが病院に行かないようにすべき。
 - ・市が考える一人ひとりが元気でいられるように。
 - ・各地区の社協でやっている「いきいき」を市の予算でやっているが、「医者に行く人が少なくなったなど数字的な結果がほしい。
 - ・今まで、岡谷市民はおとなしすぎたのでは？
 - ・もっと市民が意見を言わなくてはいけない。
 - ・カノラ小ホール6千万円の改修費用(ハード部分)、そのお金を子育て(ソフト部分)にまわせないのはなぜか。
 - ・広報をもっと見て岡谷市のことを知ることが大事。

○環境・ごみ・景観など 参加者5人

- ・大型焼却炉に興味があるが、ごみの減量に努力した後、建設した方がいいのではないか。
- ・市は焼却炉についての情報を知らせてほしい。早くしないと間に合わないというあせりがある。
- ・焼却はしない方が望ましいので、ごみを減らすためには何をすればいいのか。市民意識を高めるなどを考える必要がある。大きな焼却炉を作ったらごみは減らないと思う。
- ・市はごみを減らせと言いながら、大型の焼却炉を計画している。ごみを減らすメリットを考えないと減量は難しい。
- ・衛生自治会は以前から言っていることが同じである。もっと効果的なPRを進めてほしい。
- ・天竜川の下流のことを考えてほしい。アレチウリの除去に市民が参加してほしい。
- ・横川川は大切な水源である。みんなで力を合わせ大切にしないといけない。
- ・ごみの堆肥化をするとごみ減量につながる。鮎沢地区で行っているが、市のPRが足りないと感じている。また堆肥の使い道が決まっていることが重要である。

- ・ごみの状況は20年前から変わらない。ごみを大量に出す人には指導を徹底したらどうか。有料化や、収集回数を減らすなどの負担増を考えた方がいい。
- ・諏訪地区はごみの分別が大ざっぱである。リサイクルのためには細かくする必要がある。
- ・ごみを出す人がルールを決め、ごみについて責任を持たないといけない。市で決めたことを一方的に押し付けられるのはいけないと思う。
- ・リサイクルはいいことだが、進めるほど市民と市の負担が増える。ごみになる物を買わないことも必要。
- ・紙を燃えるごみに出す人や企業が多い。意識を変える必要があるが、それをPRする機会が無い。
- ・ごみに関する講演会は意識の高い人が来るので、その人たちが知っている話しをしても意味がないのでは。勉強になる講演が聞きたい。
- ・コンポストの補助は効果があったのか。この検証が必要。
- ・生ごみのリサイクルは、環境学習として子どもに実践させたい。学校に残飯を処理した堆肥が届けられても、子どもたちは意味がわかっていない。
- ・湊小は給食の残飯が少ない。先生の取り組みが効果を上げているようだ。
- ・焼却炉の大きさの根拠、維持費等の費用について、担当者の話が聞きたい。
- ・小坂観音からの眺めは素晴らしい。近くにマンションがあつたら台無しになる。まちづくりで景観を考えるのは大切である。
- ・諏訪湖の周囲は景観をもっと大切にしたい方がいい。小坂観音からの眺めや、塩嶺からの景色、川岸地区の新緑や桜、つつじなど、身近なところを大切にしたらどうか。
- ・土地の所有者の理解が必要だが、ある程度の規制も必要ではないか。
- ・市内の美しい景色100選を決め、景観、水源、樹木などを保護したらどうか。そうしないと守れないのでは。PRにもつながる。保存のために何をすべきかを考えるのが大切。
- ・湊の道路沿いに咲いた白いつつじは人によって悪いイメージがある。景観は人によって感覚が違う。
- ・病院を建設するなら、諏訪中央のようにボランティアが管理する癒しの庭を作ってほしい。諏訪日赤は緑がなく、無機質である。
- ・子どもたちの道徳観が低下している。このままでは将来まちを安心して歩けなくなる時代になるかもしれない。

○街の賑わい、活性化など 参加者11人

(今のまちについてのそれぞれの思いを語ってもらいました)

- ・市内にマンションが2つあり、3つ目ができる。マンションへの入居者がまちの活性化につながればと思うが。同じようにマンションのある諏訪市の紅や界限は夜でも明かりがついている。

- 大型マンションは今まで住んでいた場所が問題で、市内からの移り住みでは空き家ができたことになる。150人の人がマンションに入れば150人の空き家が生まれる。
- マンションに居住した人が市内の人か、外から転入した人か調べてみたい。
- 富岡市へ行って来た。まち全体が世界遺産に対して取り組みをしていると感じた。まちの至る所で製糸について何か張ってあり、製糸のシュウマイなどを売っていた。たぶん生糸の粉末とかが入っているだけだと思う。工場群ではボランティアのおばさんたちがテントを張ってお茶とコーヒーと漬物を出してくれた。岡谷にもうなぎのまちがあるが、うなぎは実際のところ高くて年に何回しか食べない。うなぎは浜名湖の浜松が有名で色々なものにうなぎを入れ活かしている。
- 下諏訪の万治の石仏の首が長くなったとマスコミで報道され、春宮、秋宮より人が訪れているそうだ。岡谷には製糸、みそ、酒があるので、うなぎの骨を入れた骨酒、うなぎの粉の入ったみそ、うなぎのアイス、シルクシュウマイなどちょっとしたもので頭を使ったまちづくりをすればいい。
- 現在の岡谷は働くまちではあるが、買い物するまちではない。安いうなぎを提供するなど、例えば土用は1000円にするなどやればいい。
- まちの活性化とは中央通り周辺なのか市全体の活性化か疑問である。太鼓祭りは日程が悪く、地区で盆踊りをする日にやっている。どうして8月13日なのか、地区に帰ってきてまちへ行ってしまう。太鼓祭りを盛大にやることはいいが、時期がよくない。中心市街地への集客ならば、該当する市街地の人がやる気を出さないといけない。他のまちでは大体市民祭は8月の第1週にやっている。地区でも盆踊りや屋台を出しやっている。地区のことを第1に考えてもらいたい。
- 子ども達などは太鼓祭りとその後に続く諏訪湖の花火を毎年楽しみにしている。
- 太鼓祭りは本当に市民のためのものか、観光を目的としているのか。来た人がまちにお金を落としているかは疑問である。
- 岡谷の玄関口である駅をどうするか、ララをどうするか、その先の中央通りをどうするか、昔は中央通りに行くのが楽しみだったが今はそういうものがない。みそ、うなぎなどを活かしたのものや、学生の溜まり場になるようなところがあればいい。ララからアピタまで人が行き来してもらいたい。簡単なことでないが。
- 東京に行くとき、諏訪湖のサービスエリアで買い物をよくしているが、いろいろなものがあり、参考にすることができればいい。
- 熊本に30年前に居たが、まちにアーケードがあり人々がアーケードにあるエアコンで涼んでいた。そういうことでも人は集まる。
- 店は新しくなったが、人は変わっていない。自分が子どもの時代はよかったが、今は商店では食べていけない。
- 5年10年先を見据えてまちはどういうまちがいいか考えたい。一つ一つ作り上げていくには、新しいものではなく、今あるものを使っていく、共生させて循環させていくこ

とが必要と思う。まちは永い歴史の中で作られていく。味噌では、松亀みそには大型バスが入って客が来る。これを少し広げて、お酒とかも買ってもらう。そういう取り組みが必要ではないか。

- 水門とか、神社とか循環して、共生していく。文化というものは積み重ねである。
- やまびこ公園できてから御野立公園は寂れている。遮断されているものを地下道などで繋げれば活性化する。
- 花岡公園や小坂観音などを活かす、新しいものを作る必要はない。
- カンテンパパ（伊那市）は周辺に広がっている。ヒントになるのでは。
- まちの活性化に対する考えが、イベントをやるのか、市民に対してやるのか、外に向けてやるのかなどそれぞれで違いがある。自分の考えは、スポーツの好きな人が集まる場所を作りたい。サッカーや野球観戦をするために集まる場所、スポーツに関する漫画や雑誌を集めて人が集まれる場所を作りたい。
- 岡谷の施設を見たとき、ハイツ、イルフ、マレットは結構人が集まっている。図書館の利用者は諏訪のほうが多い。それぞれの施設で目的をもって施設を利用することを考えないといけない。今の岡谷は企業が撤退するとか人口が減るとか先があるイメージが見えない。高齢者が何を求めているかを把握すること、若い人が何を求めているかを把握することが大切ではないか。企業が撤退するには理由があるはず、何が問題なのかを調べてみたい。
- ララを壊してマンションにすることは反対であり、病院が今の場所で建設されるなら、図書館はせまくララを活用して駅でもいいと思う。岡谷に来たらなにか面白いことがある。そういう駅前になればいい。
- マンションができてても周辺に広がらない。どんな人が住み何を求めているのかが分からない。
- せつかくあるのだから今のララを利用すべき、駅から出てララがあればはどうしようもない。
- 昔図書館は駅前にあった。場所は大切である。図書館は文化だから。
- 健康づくりなどやまびこまでは行かれない。ララを利用すればいい。
- 空いているララをアニマルセラピーで利用したいと申し込んだが利用できなかった。飲食のお店があるのでだめだといわれた。屋上でもよかったが目的外で断られた。
- ララの利用について市長が何を考えているか知りたいが、マニフェストがないから分からない。
- 今のララの活用状況を知りたい。
- 市民がララの活用について提案することを考えてみたい。

グループ討議終了後、参加者による報告

健康・福祉・子育て等

病院統合、病診連携、診療科目の統合の話を初めて知った人がいた。
社協で使っている予算を、子育てに使うことはできないか。
諏訪日赤の患者のうち、岡谷市民は何パーセントくらいいるのか知りたい。
市の状況をこまめに広報や報道機関で知らせて欲しい。

環境・ごみ・景観等

大型の焼却施設は、ごみを減量した後、計画した方がいい。
ごみ減量の機会を与えてほしい。
小坂の景色は素晴らしい。市内の美しい景観を保護したい。
新しい病院には、緑がある憩いの場がほしい。
天竜川の下流の環境について考えてほしい。
ごみの減量には何をしたらいいのか、考えていく必要がある。

まちのにぎわい

まちはどこまでの範囲なのかわからない。
まちづくりのイメージを作ってみたらどうか。
一つの目的を持ってまちづくりを行ったらどうか。
アピールできるものを作るのはどうか。
市民が集まって楽しめる場所があったらいい（ララオカヤの有効活用）
企業流失についての理由を把握し、まちづくりにつなげる。
太鼓まつりの日程が、お盆の忙しい時期である。

- 市 新しいテーマで話し合いたい時は、連絡をいただきたい。次回は 6 月 27 日に開催する。
- 参加者 提案講座とサロンを行っているが、成果の取りこぼしのないようにしてほしい。結果を生かせるようにしてほしい。
- 市 昨年サロンから生まれたのが、学んで提案講座である。具体的な事業を作る講座であるのがサロンとの違いである。昨年のサロンでの提言を、今年度生かされたものもあり、今年も提言をいただきたい。

(終了 8時40分)